

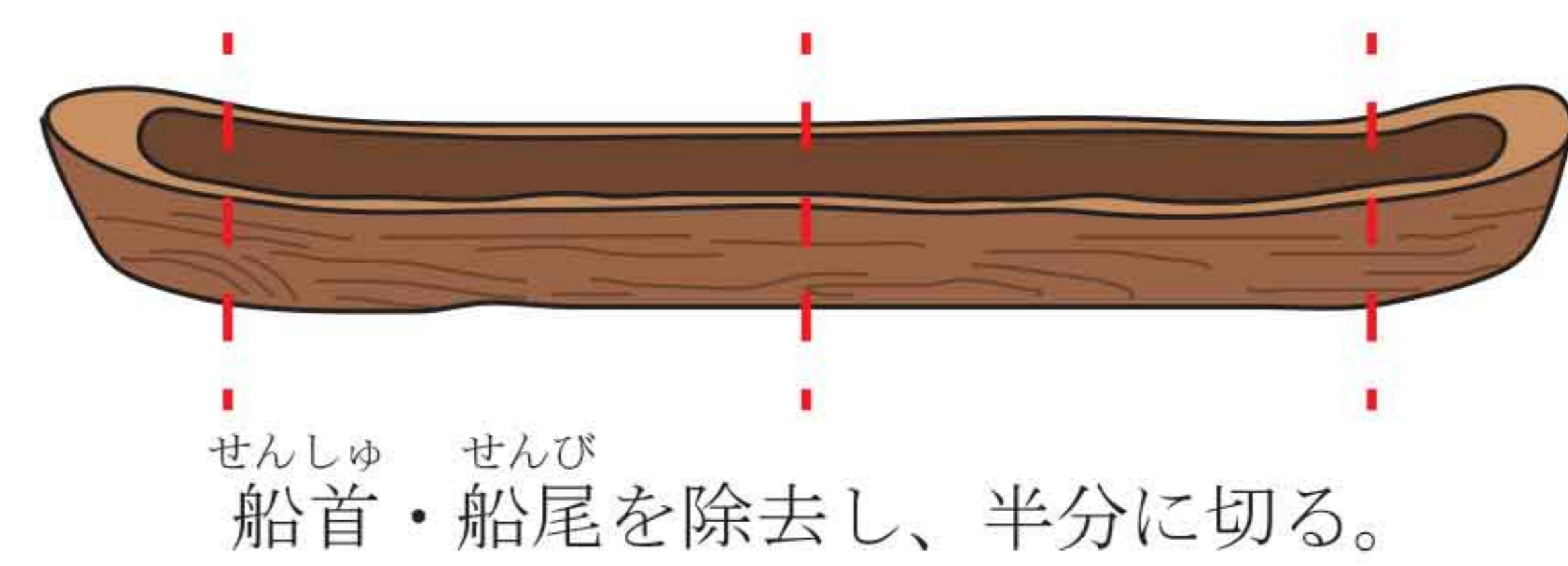


いしふなとひがしいせき

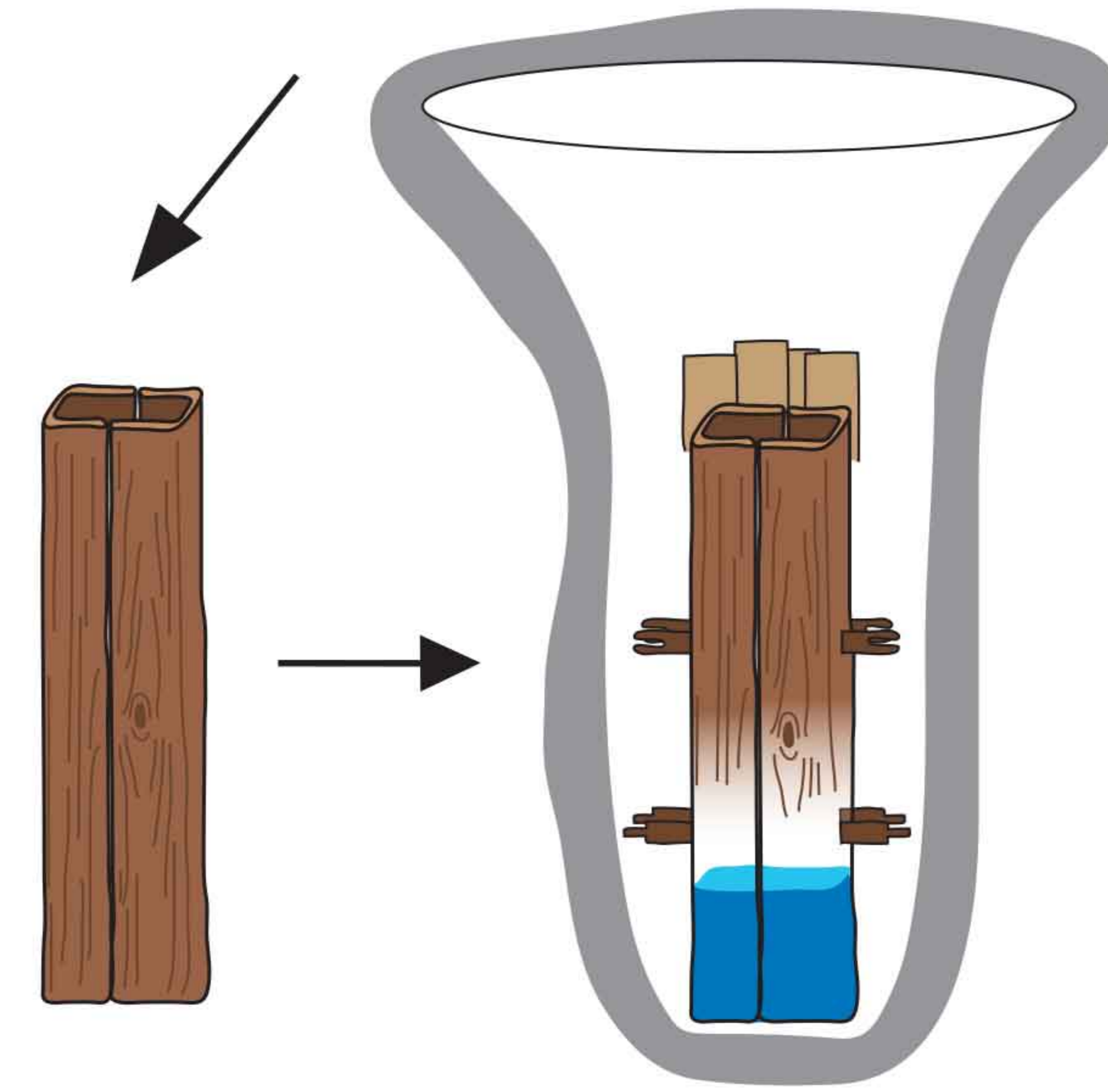
石船戸東遺跡 現地説明会

～川辺の暮らしと大型井戸～

7区では、長大な丸太の削り抜き材を用いた大型の井戸が検出されました。調査途中のため詳細な構造は不明ですが、周辺での調査事例との類似から、丸木舟を転用した可能性が高いと考えられます。遺跡の傍を流れる河川は、中世の居館である堀越館跡付近から川湊のある百津潟へと流れ込んでいたと考えられ、丸木舟ならばそこでの交通や物流に用いられたとも想像できます。



せんしゅ せんび
船首・船尾を除去し、半分に切る。



さんぎ
栈木で固定し、井戸に埋め込む。
上部は立板で保護する。

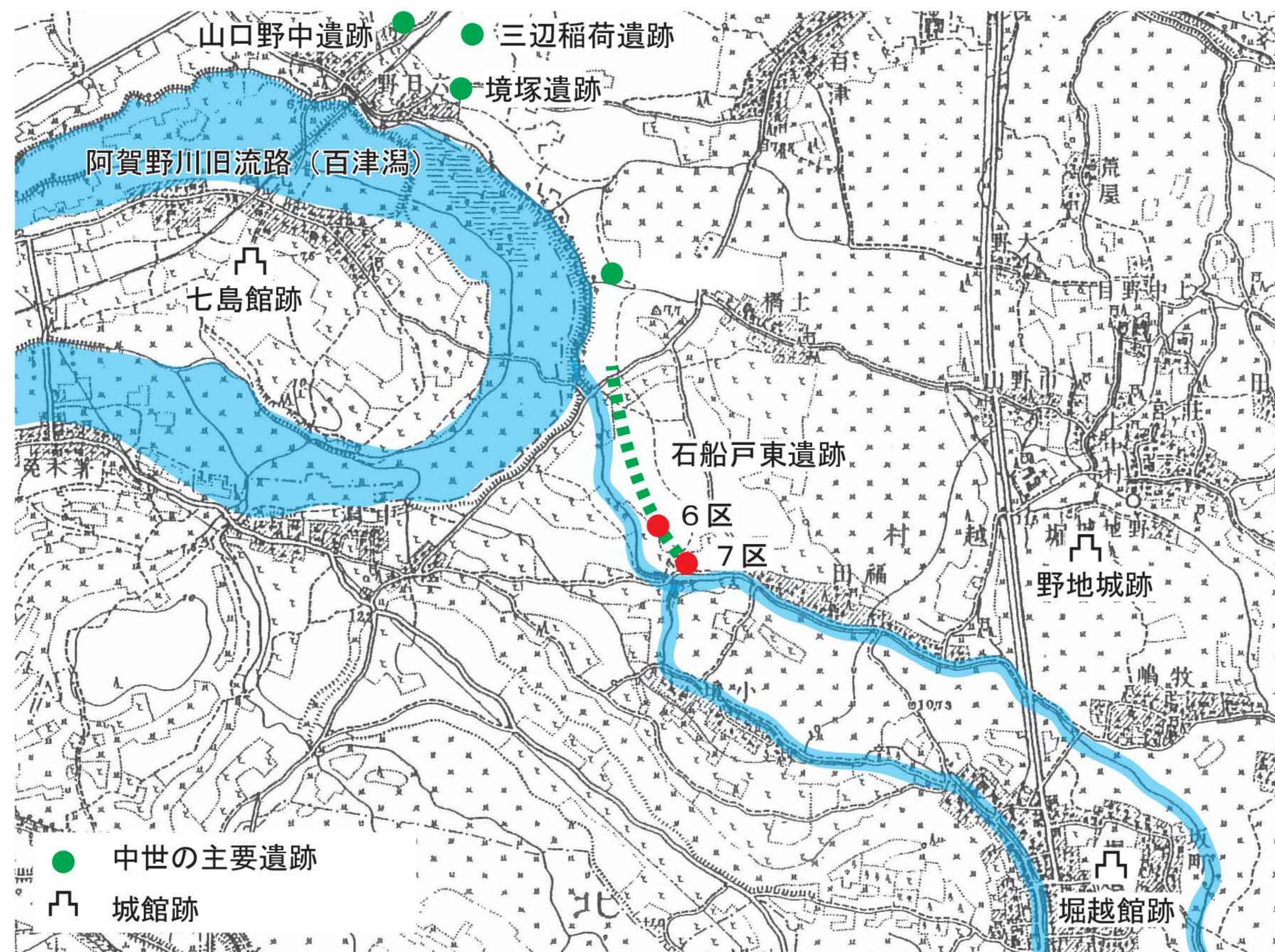
丸木舟を転用した井戸の想定図
(新潟平野の発掘調査事例をもとに作成)



大型の井戸



上空から見た遺跡（北から）



周辺の遺跡と河道 (大日本帝国陸地測量部発行大正8年1:50000原図)

石船戸東遺跡（阿賀野市福田ほか）は、阿賀野川右岸の自然堤防上に立地しています。国道49号阿賀野バイパスの建設に伴い2015年度から発掘調査を実施しています。調査区は1～7区に分かれ、今年度は1・6・7区を調査しています。今回は、6・7区の調査状況を御案内します。ここでは、中世（鎌倉・室町時代：14世紀ころ）の集落が見つかりました。周辺には花立川と呼ばれる小河川が流れていますが、中世においても川を利用した暮らしが営まれていたことがうかがわれます。

平成28年10月8日（土）

国土交通省 北陸地方整備局 新潟国道事務所

新潟県教育庁文化行政課

(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団